

令和6年度 富来小学校 学校経営ブランドデザイン

石川の教育振興基本計画(第3期)

基本理念 未来を拓く 心豊かな人づくり

志賀町学校教育目標

自主 自立 共生

○自ら課題を見つけ・学び・考え・判断できる力の育成

○単元デザインを意識し、学びを深めるための「ゆさぶり」を共通実践

<めざす学校像>

- 子どもたちの笑顔が溢れ、「大好きな富来小学校」と誇れる学校
- 子どもたちが、楽しく主体的に安心して学べる学校
- 保護者、地域と連携し、信頼される学校

<めざす児童像>

- 自ら考え、主体的に学び、行動する子
 - 相手の立場や考えを理解し、集団で協働する子
 - 健康な体と心を持ち、最後までやり抜く子
 - 場に応じて自分の思いを素直に表現しようとする子
- かしこく なかよく たくましく

<めざす教師像>

- 一人一人を大切に、保護者に信頼される教職員
- 教育目標の具現化に向けて組織的に取り組む教職員
- 自らの指導力向上を図り、互いに高め合い学び続ける教職員
- 地域の方と連携し、地域を愛し、地域と共に歩む教職員

学校教育目標 『ふるさとに学び、心豊かに、たくましく生きる子どもの育成』

本年度の重点目標

- 重点1** 志賀町学校教育モデルの実践～富来小中で9年間をスパンとした学びの推進～ ☆学習プログラム（ふるさと教育の小中連携）
- 重点2** ICT教育（GIGAスクール構想事業）の推進
- 重点3** 教育相談と特別支援体制の充実（いじめ・不登校・発達障害等への対応）
- 重点4** 教職員の働き方改革の推進

めざす資質・能力等

かしこく

基礎基本の徹底を図りながら

- 主体的に学びに向かう力…自己肯定感を高め意欲の喚起
- 情報活用能力…正しく正確な読解力
- 思考力・判断力・表現力…学んだ言葉を用いた的確な思考

なかよく

規範意識の向上を図りながら

- 心理的安全を築くための人間関係形成能力
- 仲間を大切にする社会形成能力
- 多様性を認める寛容性・包容力

たくましく

レジリエンス(resilience)を意識しながら

- 逆境や困難が訪れても、立ち直ることができる強さ・柔軟性
- 自ら考えて行動する“考動力”
- 自分の健康維持を意識し、安全安心に生活する態度

方策等と検証

- 志賀町学校教育モデル・令和の日本型学校教育の共通実践 **重点1**
- ・小中連携会議を開催し、小中9年間の系統的な学びにつながる教育課程の編成
- ・地域人材を活用し、小中連携したふるさと教育の推進
- ・児童主体の個別最適な学びと協働的な学びを往還する授業の促進
- ICTの効果的な活用…個別最適な学び・協働的な学びを促進する道具として **重点2**
- ・OJT等による教職員のスキルアップ及び家庭学習での積極的活用
- 検証：単元テストの「思・判・表」で7割以上となる児童が80%以上

- 教育活動全体を通し、生徒指導の4つの視点で価値づけ
- 縦割り班を生かした児童会活動による異学年交流の促進
- いじめを見逃さず、互いの良さを認め合う支持的学級風土の醸成 **重点3**
- ・定期的な児童理解の会・臨機応変に開催するいじめ・不登校校内委員会
- 検証：アンケート調査で「学校が楽しい」という肯定的回答が90%以上

- 失敗の肯定面を大切に、自ら立ち直るための適切な言葉かけ
- 相談者となつながら視点と方策を身に着けるSOS教育の実施 **重点3**
- 体力アップ！校！プランやスポチャレを通しての体力向上と安全教育の適切な実施
- 検証：県体力調査のシャトルランで県平均を上回る

—指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働—

<学校マネジメント>

- 小中併設の利点の活用と課題解決
- 主任を中心とし、富来中の主任とも連携した学校運営
- 同じベクトルで進む教職員集団
- 危機管理体制の充実
- ・災害発生時の安全な避難
- 働き方改革の推進 **重点4**
- ・時間外勤務時間1か月45時間以内
- ・ワークライフバランスの確保
- ・ウェルビーイングを高める体制づくり

<人材育成>

- 時機に応じたOJTや研修の実施
- 面談や研修履歴の活用を生かした学びの見通し
- 富来中教職員のよさを吸収する姿勢
- 若手、中堅、ベテランの持ち味を生かした学び合いの促進
- 指導主事要請の活用 **重点1**
- 外部研修の校内への還元

<開かれた学校>

- 家庭・地域への情報発信
- ・授業公開、各種たよりのデジタル配信、学校説明会等
- 地域や各種団体との連携
- ・交通安全、救命救急
- ・福祉と協力の児童の見守り **重点3**
- 外部評価の反映
- ・保護者評価、学校評議員の評価

<教育相談・特別支援教育体制の充実> **重点3**

- 特別支援校内委員会の充実
- ・児童理解と担任への支援
- ・医療、療育機関との適切な連携
- 通級指導教室の充実
- ・通級指導に関する理解の深化と柔軟な運用
- SCとの綿密な連携
- 必要に応じた関係機関等との連携
- ・SSW、子育て支援課、児童相談所
- インクルーシブ教育の理解